

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

A. コースワークの充実・強化

①人材養成目的に沿った科目構成の整理

●千葉大学看護学研究科看護学専攻

「専門看護師育成・強化プログラム」の事例

(具体的に何を実施したのか)

博士前期課程と博士後期課程の中間に位置づく「専門看護師強化コース」を新設し、博士後期課程の1年次に相当する独創的なコースワークを計画した。「専門看護師強化コース」で修得する6単位のうち、4単位を博士後期課程の履修単位として読み替え、コース修了生が博士後期課程に進学した場合には、千葉大学大学院学則の第33条2項を適用し、2年間での修了を可能とした。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

本コースの実施にあたり特に考慮・工夫した点は、以下の5点である。

- ・ 専門看護師教育課程修了者と専門看護師を1年間在職のまま受け入れたこと
- ・ 高度実践看護の根拠となる薬理学や病態学に関する学習を強化したこと
- ・ 本学の教員に加え、現場の看護管理者を始めとして著名な非常勤講師陣を迎えて運営したこと
- ・ 充実した海外でのCNS研修を実施したこと
- ・ 本コース修了後に本学博士後期課程に進学した場合、本コースで取得した単位のうち4単位を博士後期課程の単位として認定し、最短2年間で博士(看護学)を取得することを可能としたこと。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

平成20年度より本コースを開講し、初年度は2名のコース生と3名の科目等履修生を、平成21年度は4名のコース生と1名の科目等履修生を受け入れた。全ての科目は修了後に授業評価を実施し、結果を教員に伝え次年度に改善した。授業評価結果等から、高度実践看護の根拠となる薬理学や病態学に関する学習が強化されたこと、専門看護師・修了者との討議や所属する組織の分析・事例分析を通じた学習が強化されたこと、専門看護師が多様な活動を担う海外研修を通じた学習が充実したことが明らかとなった。近年、より高度な看護実践を担う専門看護師の育成について論議がされるなかで、薬理学や病態学の強化が示され、本コースの取り組みはその試行としての意義も大きかったと考える。

また、在職のまま専門看護師教育のコースで学ぶことは、受講生にとって自己研鑽では得られない客観的な学びや系統的な学びができる利点があり、専門看護

師の継続教育の一つの選択肢として専門看護師教育のコースが位置づいたことも成果の一つである。

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

E. 学習・研究環境の改善

⑤その他

《医療系》

●千葉大学看護学研究科看護学専攻

「専門看護師育成・強化プログラム」の事例

(具体的に何を実施したのか)

博士前期課程において、高度な看護実践に求められる包括的なフィジカル・アセスメント能力の修得を目指す「ナーシング・フィジカル・アセスメント」を新規開講するとともに、シミュレーション機器を取り揃えたシミュレーション・ラボラトリーを開設し活用した。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

- ・「ナーシング・フィジカル・アセスメント」の科目構成は、米国で高度実践看護師として活動を行う講師から生活機能や身体機能のアセスメントを学ぶ、医学研究院の協力を得て医師から診療技術を学ぶ、救急看護認定看護師からトリアージと救急蘇生を学ぶことに加え、小グループによる事例分析とシミュレーション機器を用いたフィジカル・アセスメントの実際を発表し討議することで学びを統合するものとした。
- ・「シミュレーション・ラボラトリー利用の手引き」(ラボを利用の規則、ラボの利用申請書、ラボ外へのシミュレーション機器の持ち出し申請書等で構成)を作成し配布した。毎回の授業評価を踏まえ、演習時間を確保するために平成21年度からはシミュレーション・ラボラトリーを活用した自主学習が可能となるよう体制を整え、申請書を活用するとともに、内容をWeb上のカレンダーに入力し、ラボの利用状況の情報共有を行なった。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

「ナーシング・フィジカル・アセスメント」の受講生は、平成20年度は10名、平成21年度は8名であり、加えて聴講生も5名程度出席していた。シミュレーション・ラボラトリーを活用した自主学習を開始した平成21年1月から12月までのラボの利用日数は、延べ64日間であった。

GPが終了した平成22年度からはフィジカル・アセスメントに関する事例展開を強化し、受講生は18名、聴講生4名に増加した。科目に対する学生のニーズや満足度・評価が高いこと、より高度な看護実践を担う専門看護師の育成が必要とされていることから、平成23年度からは医師の講義と自主学習等を強化し2単位の

科目とするなど、本科目の新規開講が契機となり、GP 終了後も高度看護実践に関する教育は拡充を続けている。